

自動ビュレット

取扱説明書

概要

自動ビュレットは、ビュレットに比べ薬液の補充が2連球ゴムスプレーの操作で安全かつ正確に行えます。

また、自動ビュレットはゼロ（目盛）が自動的に調整できる構造となっており、ビュレットのゼロ合わせのコック操作の手間の必要がなく、ゼロ合わせのための薬液の無駄も省けます。自動ビュレットには「ゴム専用セット」と「平面接続用セット」の2種類があり、それぞれ取り付け方法及び付属品が異なりますので、ご注意ください。

組立方法

1. 開梱し、破損・欠品の確認をしてください。
2. 上部カルシウム管の取り付け方

カルシウム管の中にガラスウール又は脱脂綿等をつめ、乾燥剤を入れ、更にガラスウール等をつめ、最後にゴム栓でとめます。

ビュレット本体上部にゴム管付きカルシウム管を図 - 1 のように取り付けてください。

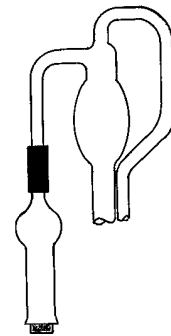


図 - 1

3. 試薬ビンへの取り付け方

ゴム栓用自動ビュレット

ビュレットは外径16mmですので、ゴム栓に16mmの穴を開け、本体を差し込み、試薬ビンに取り付けてください。

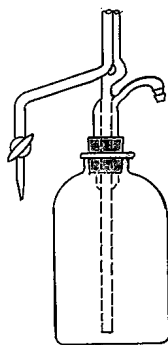


図 - 2

平面接続用自動ビュレット

クランプ3ヶ所のビスを緩め、つば付きピンの上にパッキンをのせ、その上よりビュレットを差し込み、クランプの3ヶ所のビスを均等に順々にねじ込んでください。

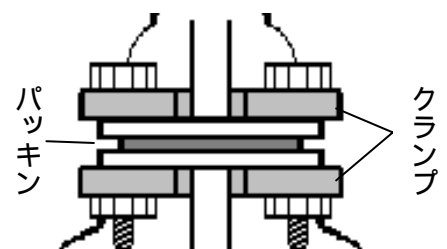
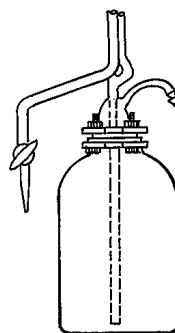


図 - 3

4. 2連球の取り付け方

図 - 4 のようにゴム管付きカルシウム管にガラスウール又は脱脂綿等を詰め、最後にゴム栓をとめます。

ゴム栓の穴に、T字管を図 - 4 のように差し込みます。T字管の下部に2連球ゴムスプレーのゴム管を差し込んでください。

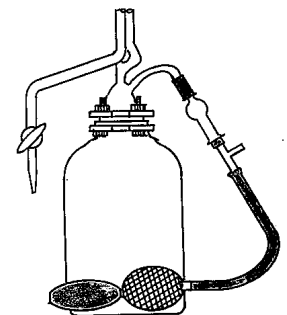


図 - 4

使用方法

1. 図 - 5 の T 字管の矢印の部分で指で押さえ、2 連球スプレーのゴム球部を手で数回押しますと、網のかぶっているゴム風船部が膨れてきます。
2. ゴム球が膨れると同時に、ビン内が加圧されビュレット部に薬液が押し出されてきます。
3. ビュレットの目盛りのゼロ位置を超え、ガラス球部の下側位で、T 字管を押さええている指を放しますと、ビュレット本体への薬液の注入がとまり、自動的にゼロ位置まで薬液が下がります。

(図 - 6)

目盛りでゼロの位置が目盛られてませんが、1 ~ 3 項目の操作をし、薬液の水(液)位が止まったところが自動的にゼロの位置となります。

4. ビュレットのコックを開閉して、薬液を滴下させます。
5. 滴下後、1 ~ 3 項目の操作を繰り返すとビュレット内に常に規定量の薬液が充填されます。

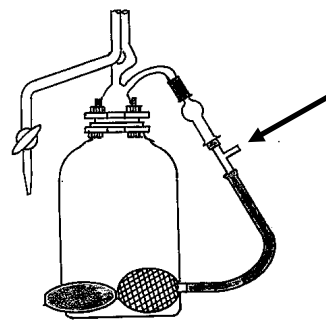


図 - 5

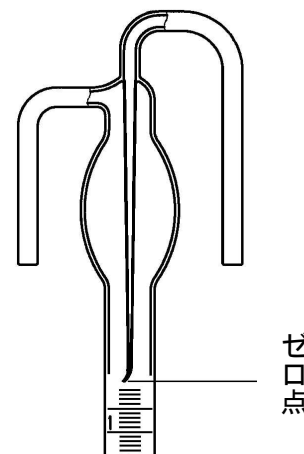




図 - 6

取り扱い上の御注意

1. 長時間使用されないときは、ビュレットより液を抜いて洗浄の上、コックを緩めた状態で保管してください。
2. 茶褐色及び青筋の製品は、洗剤・薬品等には長時間浸さないようにしてください。また、ブラシの強い洗浄は避けるようにしてください。塗料が剥離する場合があります。
3. 使用中コック部に異物が付着した場合は、速やかに清掃してください。そのままご使用されるとコック部に傷を生じ、漏れの原因となる場合があります。
4. ガラスコックの場合、合番が印字されていますので、本体と同じ合番のものをご使用ください。また、使用時にはコック部にグリスを塗ってご使用ください。
5. P T F E 製のコックの場合、コックがゆるくなった時は後のナットを増し締めしてください。

《付属品》

	カルシウム管 (ゴム管付き)	T 字管	クランプ (パッキン付)	2 連球 ゴムスプレー
				
自動ビュレット ゴム栓用	2 個	1 個		1 個
自動ビュレット 平面接続用	2 個	1 個	1 式	1 個

09.07.17H(06)



SIBATA SCIENTIFIC TECHNOLOGY LTD.

柴田科学株式会社

本 社 〒340-0005 埼玉県草加市中根 1-1-62
 東京営業所 ☎03-3822-2111 福岡営業所 ☎092-433-1207
 大阪営業所 ☎06-6356-8131 仙台営業所 ☎022-207-3750
 名古屋営業所 ☎052-263-9310

<http://www.sibata.co.jp/>

カスタマーサポートセンター (製品の技術的サポート専用)
 0120-228-766 FAX : 048-933-1590